



# 海軍公報 第四九五二號

昭和二十年三月八日(木)

海軍大臣 爲房

## ○令 達

内令第一七三號

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

佐世保鎮守府在籍

第百九十二號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年二月二十八日

海軍大臣 臣

内令第一九〇號(軍機秘海軍公報第九四號(乙配付)ニ掲載)

内令第一九一號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年三月一日

海軍大臣 臣

第三十二特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第十二號(吳)」ヲ削ル

第十六警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第六十七號(鎮)」ノ前ニ「第十一號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁參照)

内令第一九二號

横須賀鎮守府在籍

第十六號魚雷艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ニ改ム

昭和二十年三月一日

海軍大臣 臣

内令第一九三號

昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年三月一日

海軍大臣 臣

第二十七魚雷艇隊ノ項中「497」ノ上ニ「16」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二七頁參照)

内令第一九四號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年三月一日

海軍大臣 臣

第二十五根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第十八日東丸(吳)」ヲ削ル

第十六警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「芙蓉丸(吳)」ノ次ニ「第十

秘海軍公報 第四九五二號 昭和二十年三月八日

二五三

1931

八日東丸(吳)一ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第一九五號

汽船 春日丸

右特設救難船トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

昭和二十年三月一日

海軍大臣

内令第一九六號

佐世保鎮守府警備艦

軍艦 能登呂

右役務ヲ解カル

佐世保鎮守府豫備艦

軍艦 能登呂

右第四豫備艦ト定ム

昭和二十年三月一日

海軍大臣

○通牒

官房機密第一三四號ノ二五

昭和二十年三月一日

海軍省副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進  
首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セラルルモノヲ除キ別冊暗號圖書  
現狀表第四七號ニ依リ處理相成度  
(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

○雜 獻

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始日	電話	記事
被隊第百一十一潜水艦隊員事務所	神戸三菱造船所内	二月二日		
第十九號輸送艦隊員事務所	吳海軍工廠内	二月四日		
第三百六十一設營隊	佐世保海軍施設部第三課内	同 右	市内電話三〇九〇番 鎮守府電話二七二七番	
第三百六十二設營隊	同 右	同 右		
飄送艦捕鯨隊員事務所	横須賀海軍工廠内	二月五日		

○本日軍機秘海軍公報第九五號(乙配付)及同第九六號(甲配付)發行セリ

乙配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、  
吳海軍工廠、石垣島警備隊、關係各學校

1932



# 海軍公報

第四九五三號

昭和二十年三月九日(金)

海軍大臣

○令 達

内令第一九七號

驅逐艦 菱

伊號第二百八潛水艦

第七十號海防艦

第八十號海防艦

第一百十七號海防艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

海防艦 友知

同 大津

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

同 蔚美

第二百號海防艦

第二百二號海防艦

第二百三十五號海防艦

第二百七十四號輸送艦

第二百七十五號輸送艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

第六十八號海防艦

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス

昭和二十年三月五日

海軍大臣

内令第一九八號

第五百五十四號魚雷艇

第五百五十五號魚雷艇

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定ム

昭和二十年三月五日

海軍大臣

内令第一九九號

自魚雷艇 第三十七號集艇

至魚雷艇 第四十六號集艇

自第八百九十五號魚雷艇

至第九百號魚雷艇

自第一千一百一號魚雷艇

至第一千零八號魚雷艇

至第一千零八號魚雷艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

昭和二十年三月五日

海軍大臣

海軍公報 第四九五三號 昭和二十年三月九日

二五五

1933

内令兵第六號  
機雷、爆雷關係信管識別塗粧ヲ左ノ通定ム  
昭和二十年三月八日、海軍大臣

種別	識別塗粧法
機雷電氣信管	信管管頭中央部周圍ニ幅五耗ノ赤線ヲ塗粧ス
機雷教練信管	塗粧セズ
九一式機雷電氣信管	信管管頭中央部周圍ニ幅五耗ノ赤線ヲ塗粧ス
九一式機雷教練信管	塗粧セズ
九五式爆雷信管	信管管頭中央部周圍ニ幅五耗ノ赤線ヲ塗粧ス
假稱三式爆雷信管	信管管頭中央部周圍ニ幅三耗ノ赤線ヲ二條平行ニ塗粧ス

官房教機密第一〇四號

海軍航海學校教育綱領中左ノ通改正ス

昭和二十年三月一日

海軍大臣

第一條及第六條中「見張術又ハ氣象術」ヲ「又ハ見張術」ニ改ム  
第十四條及第十五條ヲ削リ第十六條ヲ第十四條トシ同條中「見張術又ハ氣象術」ヲ「又ハ見張術」ニ改ム

官房人機密第一〇四號

鎮守府司令長官ハ昭和十九年官房人第二〇四號ニ依リ採用シタ

ル電測關係豫備練習生出身ノ掌電測兵タル豫備下士官ニ就キ昭和二十年三月一日現在ヲ以テ昭和十九年官房教機密第三四一號ニ依リ臨時電測術(兵器整備)講習ノ航空兵器班ヲ專修シ之ヲ教程ヲ修了シタル者ハ高等科掌航空兵器兵(航空電波兵器整備專修者)ト爲シ其ノ他ノ者ハ本年官房人機密第四五號ニ準シ之ヲ專修班別ヲ定ムルモノトス  
前項ノ規定ニ依リ高等科掌航空兵器兵(航空電波兵器整備專修者)ト爲リタル者ハ同日附之ヲ現官階ト同官等ノ整備科豫備下士官ニ任用スルモノトス  
昭和二十年三月七日、海軍大臣

官房艦機密第七號ノ二三

昭和二十年三月八日

海軍大臣

各鎮守府司令長官(大湊、大阪)  
鎮海、高雄) 整備府司令長官  
兵器簿ノ件通達

各艦船部隊學校兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正ス

同	改正	區分	類別	品名	數稱	雜記	摘要
同	同	彈藥庫器具	稻妻形回螺器	個	個	特工型割回螺器ヲ代用シ得	雜紀追記

○通牒

經豫機密第三號之二四

昭和二十年三月八日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

軍用手票ニ關スル件通牒

昭和十三年經豫機密第三號ノ一一別紙支那事變派遣部隊經費支辨軍用手票取扱手續中左記ノ通改正セラレ候條了知相成度

記

一「支那事變派遣部隊經費支辨軍用手票取扱手續」ヲ「昭和十

二年軍用手票取扱手續」ニ改ム

二第一條中第二項ヲ削ル

(參照) 海軍機密會計法規類集四四頁、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

○雜款

○司令潜水艦變更

第三十三潜水隊司令ハ二月二十六日司令潜水艦ヲ呂號第六十四潜水艦ニ變更セリ

○開隊、閉隊

部隊、官衙名

所在地

開隊、閉隊日

記

事

中支海軍航空隊 (舊上海海軍航空隊)	中華民國上海陸基地内	二月一日	上海海軍航空隊ハ二月一日解散殘務整理ハ當隊内ニ於テ之ヲ行フ
-----------------------	------------	------	-------------------------------

秘海軍公報 第四九五三號 昭和二十年三月九日

寶島海軍航空隊  
分遣隊寶島隊

兵庫縣川邊郡小濱村川面

三月二日

順路  
阪急寶塚線下車○、三軒五軒山線寶塚線下車○

橫須賀海軍施設  
部名古屋支部

愛知縣愛知郡天白村大字八事字音間山二七番地

三月五日

一 東海道線名古屋驛下車、池下各行ニテ今池下車八分  
二 東海線ニ乗換八事驛下車八分  
三 當分ノ間 電話 二五三六番  
四 電話 二七三六番  
五 電話 一八七七番  
六 電話 一八七七番  
七 電話 一八七七番  
八 電話 一八七七番  
九 電話 一八七七番  
十 電話 一八七七番

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始日	電話	記事
高雄船舶救難支部	臺灣高雄市新濱町一丁目二十二番地	二月二日		
第三百五十一設營隊	吳海軍施設部内	二月二日	吳鎮二七五二番	
第二十號輸送艦艇裝具事務所	吳海軍工廠内	二月二日		

○電話設置

高知 一五三番

(高知海軍航空隊)

○事務所撤去

事務所名	撤去日	記事
第四十三魚雷調整班事務所	二月一日	

二五七

1935

第百九十二號海防艦艇裝員事務所	二月二十八日
第三百十二設營隊殘務整理班	二月二十八日

○轉勤者赴任先

當隊並ニ左記飛行隊ヘノ轉勤者ハ鹿兒島縣鹿屋市鹿屋航空基地  
(古江線鹿屋驛下車)ニ赴任セシメラレ度

記

- 攻撃第七〇八飛行隊
- 攻撃第七一一飛行隊
- 戦闘第三〇五飛行隊
- 戦闘第三〇六飛行隊
- 戦闘第三〇七飛行隊

(第七二一海軍航空隊)

○本日軍極秘海軍公報第九七號(乙配付)發行セリ  
配付先

各艦隊司令部、各特攻戰隊司令部、各突撃隊、各海軍人事  
部、海軍水雷學校

○本日海軍公報發行セズ

1936

秘

海軍公報 第四九五四號

昭和二十年三月十日(土) 海軍大臣官房

○令 達

内令第二〇〇號(軍機秘海軍公報第九八號(乙配付)ニ掲載)

内令第二〇一號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年三月五日

海軍大臣

第一南遣艦隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第二遣支艦隊

第二十四號(佐)

第三十一特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二十四號(佐)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第二〇二號

特設掃海隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年三月五日

海軍大臣

第四十三掃海隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、一五〇頁参照)

内令第二〇三號

昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年三月五日

海軍大臣

大島防備隊ノ項特設掃海艇ノ欄ニ「姫島丸(佐)、寶永丸(佐)、第八長運丸(佐)、ちとせ丸(佐)、新浦丸(佐)、關丸(佐)、第七利丸(佐)」ヲ加フ

鎮海防備隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

基隆防備隊

昭代丸(舞)

第三南遣艦隊ノ項特設防潛艇ノ欄「下松丸(吳)」ヲ、特設驅潛艇ノ欄「八代丸(舞)」及「昭代丸(舞)、瑞鳳丸(舞)」ヲ削ル

支那方面艦隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第二遣支艦隊

下松丸(吳)

青島方面特別根據地隊

第十昭南丸(横) 第八代丸(舞) 瑞鳳丸(舞)

第三十根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第十一昭南丸(横)」ヲ

1937





第十三條 海軍機關學校術科教程ニ於ケル教育ハ主トシテ内火  
機關關係兵科豫備將校トシテ必要ナル素養ヲ得シムルヲ目的  
トシ之ニ課スベキ教科目左ノ如シ

科	目	項	日	記
本	内火機關	内火機械理論大要、小型内火機械及同關聯裝置ノ構造機構及整理探檢法、大型内火機械大要		
	蒸氣機關	タービン主機械及同關聯裝置大要、重油専燒爐及同關聯裝置大要		
	電力機關	發電機、電動機、蓄電池及配電裝置ノ理論構造及取扱法、電気工業大要		
	補助機械	空壓壓縮ポンプ取扱法、冷却機械概要		
	工	工作法及潜水法一般		
	要務	機關運轉要務大要、造修要務大要、補給要務大要、教育訓練大要、戰術大要、職務大要、燃料及主要軍需品大要		
	圖學	畫法及見取法概要		
	兵學	航海、運用、防備、潜水艦及航空(整備ヲ含ム)大要、各種兵器大要		
	軍隊統率法	軍隊教育、指揮統率法		
	體育	武技、體技、體操		
補	陸戰	陸戰教練		
	信號	手先信號法、手旗信號法		校長ハ必要ニ應ジ適宜取捨スルコトヲ得
	衛生	海軍衛生一般、救急法		

(參照) 内令提要卷二、四八五頁

秘海軍公報 第四九五四號 昭和二十年三月十日

○通牒

官房軍第一二三號

昭和二十年三月八日

各廳長殿

海軍省副官

公用軍事郵便物差出制限ニ關スル件申進  
最近ノ戰局ニ因リ南方及内南洋方面ニ達スル軍事郵便物ノ輸送極メテ困難トナリタルニ付同方面宛公用軍事郵便物ハ左記ニ依リ之ガ差出ノ抑制又ハ停止方可然配意相成度

記

- 一 比島、ニューギニア方面並ニパラオ諸島ニ對シテハ當分ノ間差出ヲ見合ハスコト
- 二 右以外ノ内南洋及南方方面ニ對シテモ極力差出ヲ抑制シ小包郵便物ハ必要已ムヲ得ザルモノニ限り且重量モ六〇〇瓦以下ニ止ムルコト
- 三 目下郵便局ニ停滯セル公用小包郵便物中六〇〇瓦ヲ超ユルモノハ一先返戻スベキニ付是非共送達ヲ要スルモノハ改メテ差出スコト

海人四機密第三〇號

昭和二十年三月九日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

1939

昭和二十一年度陸軍戰時召集延期ノ資料中改  
正ニ關スル件照會

本年兵備四機密第二〇〇號照會首題ノ件中戰時召集延期實施要  
領別紙第三様式ヲ別紙ノ通改正セラレ候ニ付テハ本改正様式ニ  
基キ調査ノ上來三月二十五日迄ニ到着スル様通報相成度  
追テ本様式ニ於ケル事務者トハ本人ノ經歷ノ如何ニ拘ラズ純  
然タル事務ニ従事スル者ヲ謂フ尙技術者中ニハ企業ノ運営、  
企畫、勤勞管理等ノ担当者ニシテ本人在ラザレバ企業ノ運営  
ニ重大ナル支障ヲ來ス者ニ限り之ヲ含マンシメ差支無之候  
(別紙添)

○雜 款

○司令驅逐艦變更

第七驅逐隊司令ハ一月二十五日司令驅逐艦ヲ響ニ變更セリ

(第七驅逐隊)

○開隊

部隊名	所在地	開隊月日	記	事
第三十二突擊隊	鹿兒島縣指宿郡指宿町	三月一日		
川棚突擊隊	長崎縣東彼杵郡川棚村	同	右	
奈良海軍航空隊 舊三重海軍航空隊 分遣隊	奈良縣山邊郡丹波市町	同	右	旅行順路 櫻井線丹波市驛下車徒歩 約十分

海軍航空隊  
奈良海軍航空隊  
舊三重海軍航空隊  
分遣隊

長崎縣諫早市小野島町  
同  
右

佐鎮交換  
旅行順路  
長崎本線諫早驛  
乘換社線  
小野村驛下車  
徒歩約十分

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	電 話	記 事
第三百七十二號檢送廠職員事務所	佐賀縣西松浦郡山代町海軍廠職員事務所内	三月二日		
第三百二十三號營隊	佐世保海軍施設部第三課内	二月二十四日	鎮守府 二七二七番 三〇九〇番	
第三百九十六號海防艦艇裝具事務所	長崎市三菱重工業株式會社海防艦艇事務所内	二月六日		
事務所 聯運艦雄竹裝具事務所	舞鶴海軍工廠内	三月一日		
第二十三聯合航空隊司令部	滋賀海軍航空隊内	三月一日		
第三十六號營隊	神奈川縣鎌倉郡大船町岡本二九五	三月五日	大船 五番	三月五日 日移轉

○本日軍極秘海軍公報第九八號(乙配付)發行セリ

配付先

各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、同支廠



秘

海軍公報 第四九五五號

昭和二十年三月十二日

海軍大臣 官房

○令 達

官房軍機密第二四四號  
各領守府司令長官ハ當分ノ間別表ニ依リ在籍ノ下士官及兵ヲ派遣セシムベシ

昭和二十年三月九日

海軍大臣

(別表添)

(本令發付ニ伴ヒ同關係ノ從前ノ下士官及兵派遣訓令ハ自  
然消滅)

官房人機密第一五〇號

現ニ召集中ノ海軍豫備士官ニシテ昭和十九年勅令第二百七十八號海軍豫備員ヨリスル海軍武官任用等特例ノ規定ニ依リ現役ノ海軍士官タラシコトヲ志願スルモノハ左ニ依リ出願スベシ  
志願者ニ對スル願書及考課表ノ進達ニ關シ左ノ通定ム

昭和二十年三月十日

海軍大臣

一 願書所轄長ニ提出期限

昭和二十年四月十日

秘海軍公報 第四九五五號 昭和二十年三月十二日

二 願書及考課表進達期限

昭和二十年四月三十日但シ通信連絡困難ナル遠隔ノ地ニ在リテ進達困難ト認ムル場合ハ所轄長ヨリ任用適任者ノ氏名ヲ電報報告スルモノトス

○通 牒

海人一第九號ノ一五

昭和二十年三月十日

海軍省人事局

部内各廳御中

新任技術科、法務科士官ノ電報符ニ關スル件  
中進

昭和十九年九月三十日採用海軍技術見習尉官(技術學生及二年現役大學出身者)、海軍法務見習尉官中本年三月一日附海軍技術中尉及海軍法務中尉ニ任用セラレタル者ノ電報符ハ秘海軍辭令公報甲第一七三九號任官辭令ニ記載ノ番號ヲ付與セラレタルモノトス

追テ未任官者ニ對スル電報符左記ノ通付與ス

記

二六三

1942

氏名	電報符	氏名	電報符
石黒一男	六六〇六	寺本堅三	六六二四
石谷清起	六六〇七	葦原健	六六二五
井上一郎	六六〇八	佐藤好司	六六二六
井手官三郎	六六〇九	指山博義	六六二七
一瀬正	六六一〇	宮野鼻恒夫	六六二八
濱田久光	六六一一	廣光一治郎	六六二九
仁禮一	六六一二	森島泰正	六六三〇
小澤秀司	六六一三	須網哲夫	六六三一
大塚達也	六六一四	池田穰	六六三二
岡村直彦	六六一五	林昇一郎	六六三三
渡邊健一	六六一六	長谷川美知男	六六三四
渡邊宏助	六六一七	西原正夫	六六三五
田中榮次郎	六六一八	太田實	六六三六
七澤喜男	六六一九	小貫一郎	六六三七
植村恒義	六六二〇	荻田敬直	六六三八
山内次郎	六六二一	片桐慶雄	六六三九
山高茂	六六二二	吉岡健	六六四〇
小谷淳	六六二三	高森三郎	六六四一

  

永盛峰雄	六六四二	青木洋	六六五〇
村岡和夫	六六四三	佐々木吳幸	六六五一
熊本昌司	六六四四	齋藤泰一	六六五二
八幡純暢	六六四五	湯山雅	六六五三
牧正文	六六四六	比良二郎	六六五四
藤木忠男	六六四七	瀨尾琢郎	六六五五
藤原軍治	六六四八	須具高麗夫	六六五六
藤吉三郎	六六四九	横山唯志	六六五九

  

○難 款

○學生入校期  
昭和二十年官房入機密第一一號ニ依ル本校第三十四期特修科(艇長)學生ハ四月二日(月)始業、第三十五期特修科(對潛)學生ハ四月十日(火)始業ニ付各其ノ前日迄ニ着校セシメラレ度  
(海軍對潛學校)

○本日軍機秘海軍公報第九九號(乙配付)及同第一〇〇號(甲配付)發行セリ  
乙配付先  
關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍入事部、  
吳海軍工廠、舟山島警備隊、關係各學校

○本日海軍公報發行セズ

(内令第二〇八號別表)

(昭和二十年三月十七日海軍公報)

考 備	計		附		附		分隊長		部 員		支 部 長		長 中 少 將	部	支					
	特 務 士 官	士 官	主計中少尉(主)	衛生中少尉	中少尉(機)	中少尉(水)	主計中少尉	軍醫中少尉	中少尉	主計科佐尉官	軍醫科佐尉官	兵科佐尉官				兵科佐尉官	大 佐			
一 中少尉(水)、兵曹長及中少尉(機)、機關兵曹長ハ夫々合計員數ノ範圍内ニ於テ彼此増減スルコトヲ得 二 下士官及兵ハ合計員數ノ範圍内ニ於テ彼此増減シ又他科ノ下士官及兵ヲ以テ充ツルコトヲ得 三 特修兵及教員ノ配置ハ海軍大臣之ヲ定ム 四 海軍大臣ハ必要ニ應ジ本表ノ定員ヲ臨時増減スルコトヲ得	二十二人	四十三人 内兼務十二人	四	一	二	十五	一	四	四	一	一	一	十八	部	支					
	六人	十一人 内兼務四人	一	二	三	三	一	一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	神 戸 門 司	支				
	四人	九人 内兼務四人	一	一	二	二	一	一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	神 戸 門 司	支				
	二人	五人 内兼務四人	一	一	一	一	一	一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	神 戸 門 司	支				
		五人 内兼務四人	一	一	一	一	一	一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	神 戸 門 司	支				
		兼務三人	一	一	一	一	一	一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	神 戸 門 司	支				
		一人	一	一	一	一	一	一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	兼務一	神 戸 門 司	支				
		兵 下士官 二百八十三人	准 士官 二百七十七人	主 計 兵 二百	衛 生 兵 三十二	工 作 兵 六	機 關 兵 四十二	水 兵 百一	主 計 兵 曹 二十七	衛 生 兵 曹 七	工 作 兵 曹 四	機 關 兵 曹 十	兵 曹 六十九	主 計 兵 曹 長 二	衛 生 兵 曹 長 一	工 作 兵 曹 長 一	機 關 兵 曹 長 三	兵 曹 長 二十一	部	支
		二十七日	二十七日	二十	三	一	三	四	二	一	五	五	一	五	神 戸 門 司	支				
		十八人	十九人	五	十	三	三	三	一	一	六	八	一	五	神 戸 門 司	支				
	五人	十五人	三	二	二	二	二	一	一	四	七	一	五	神 戸 門 司	支					
	四人	十五人	二	二	二	二	二	一	一	四	七	一	五	神 戸 門 司	支					

秘

# 海軍公報

第四九六一號

昭和二十年三月十八日(日)

海軍大臣官房

### ○令 達

内令第二二七號(軍機秘海軍公報第一〇一號(乙配付)ニ掲載)

内令第二二八號

驅逐艦 雄 竹

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

波號第百九潛水艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

第百七十二號輸送艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

第百七十三號輸送艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

昭和二十年三月十日

海軍大臣

内令第二一九號

輸送隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年三月十日

海軍大臣

第二輸送隊ノ項中「第百五十四號」ノ下ニ「第百七十二號」ヲ加フ

(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第二三〇號

右特設敷設艦トシ吳鎮守府所管ト定メラル

汽船 永城

横須賀鎮守府所管 特設工作艦 白 沙

右特設運送艦ト改ム

昭和二十年三月十日

海軍大臣

内令第二二二號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年三月十日

海軍大臣

第七驅逐隊ノ項中「霞」ヲ削ル

第二十一驅逐隊ノ項中「初霜、時雨、朝霜」ヲ「初霜、朝霜」ニ改ム

第四十三驅逐隊ノ項中「梅」ヲ削ル

第五十二驅逐隊ノ項中「縦」ヲ削ル

(内令提要卷一、六八頁参照)

内令第二二三號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

秘海軍公報 第四九六一號 昭和二十年三月十八日

二九一

1945

<p>昭和二十年三月十日 海軍大臣 第十五潜水隊ノ項中「伊號第二十六、」及「伊號第三十七、伊號第三十八、伊號第四十一、」及「伊號第四十五、伊號第四十六、」及「伊號第五十四、」ヲ削ル 第三十三潜水隊ノ項中「呂號第六十七、」ノ下ニ「波號第百六、」ヲ加フ 第三十四潜水隊ノ項中「伊號第百七十七、」及「呂號第四十七、」ヲ削ル (内令提要卷一、七〇頁参照)</p>	<p>内令第二二三號 海防隊編制中左ノ通改定セラル 昭和二十年三月十日 海軍大臣 第一海防隊ノ項中「千振、」及「第十七號、第十九號、」ヲ削ル 第十一海防隊ノ項中「第三號、」ヲ削ル (内令提要卷一、七三頁参照)</p>	<p>内令第二三四號 輸送隊編制中左ノ通改定セラル 昭和二十年三月十日 海軍大臣 第二輸送隊ノ項中「第七號、」及「第百七號、」及「第百五十四</p>
<p>號、」ヲ削ル (内令提要卷一、七四頁参照) 内令第二三五號 掃海隊編制中左ノ通改定セラル 昭和二十年三月十日 海軍大臣 第二十一掃海隊ノ項ヲ削ル (内令提要卷一、七五頁参照)</p>	<p>内令第二二六號 驅潛隊編制中左ノ通改定セラル 昭和二十年三月十日 海軍大臣 第二十一驅潛隊ノ項中「第十八號、」ヲ削ル (内令提要卷一、七六頁参照)</p>	<p>内令第二二七號 佐世保鎮守府警備海防艦 第四十二號海防艦 佐世保鎮守府警備掃海艇 第三十八號掃海艇 佐世保鎮守府警備驅潛艇 第六十一號驅潛艇</p>

1946



吳鎮守府警備敷設艇  
敷設艇 由利島

昭和三十二年三月十日

海軍大臣

内令第二二八號

横須賀鎮守府在籍

驅逐艦 旗 風

驅逐艦 梅

驅逐艦 樺

佐世保鎮守府在籍

驅逐艦 時 雨

驅逐艦 梅

右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍

伊號第二十六潛水艦

伊號第四十一潛水艦

伊號第四十五潛水艦

伊號第四十六潛水艦

伊號第三百六十五潛水艦

吳鎮守府在籍

伊號第三十七潛水艦

伊號第三十八潛水艦

右帝國潛水艦籍ヨリ除カル

佐世保鎮守府在籍

呂號第四十七潛水艦

右帝國砲艦籍ヨリ除カル

横須賀鎮守府在籍

海防艦 干 振

第十七號海防艦

第十九號海防艦

第三十五號海防艦

第四十三號海防艦

吳鎮守府在籍

第三號海防艦

佐世保鎮守府在籍

海防艦 久 米

第二十三號海防艦

第四十二號海防艦

第五十一號海防艦

第三百三十八號海防艦

右帝國海防艦籍ヨリ除カル

秘海軍公報 第四九六一號 昭和三十二年三月十八日

二九三

1947

横須賀鎮守府在籍	第七號 輸送艦	第七號 輸送艦	第七號 輸送艦	吳鎮守府在籍	第一百五十一號 輸送艦	第一百五十七號 輸送艦	佐世保鎮守府在籍	第三百三十二號 輸送艦	第三百三十九號 輸送艦	舞鶴鎮守府在籍	第四百四十號 輸送艦	第十四號 輸送艦	第十五號 輸送艦	右帝國輸送艦籍ヨリ除カル	横須賀鎮守府在籍	第五號 掃海艇	第一百一號 掃海艇	佐世保鎮守府在籍	第三十八號 掃海艇	右帝國掃海艇籍ヨリ除カル	横須賀鎮守府在籍	第三十一號 驅潛艇
佐世保鎮守府在籍	第十八號 驅潛艇	第六十一號 驅潛艇	右帝國驅潛艇籍ヨリ除カル	吳鎮守府在籍	敷設艇 山利島	右帝國敷設艇籍ヨリ除カル	佐世保鎮守府在籍	第三十八號 哨戒艇	舞鶴鎮守府在籍	第三百三號 哨戒艇	右帝國哨戒艇籍ヨリ除カル	横須賀鎮守府在籍	特務艦 洲崎	佐世保鎮守府在籍	特務艦 野崎	右帝國特務艦籍ヨリ除カル	昭和二十年三月十日	海軍大臣	官房教機密第一二九號	當分ノ間左ノ各號ニ依リ小型潜水艦艇裝員長、艇裝員及艇裝員 附豫定者ニ對シ潜航術講習ヲ施行ス		

1948

昭和二十年三月十六日

海軍大臣

一 講習目的

小型潜水艦ノ艦装員長、艦装員及艦装員附豫定者ニ對シ潜航術講習ヲ實施シ配員後直ニ之ヲ操縦ニ當リ得ルト共ニ就役後速ニ術力ヲ充實シ第一線ニ進出可能ナラシムルニ必要ナル素地ヲ練成セシムルニアリ

二 講習項目、期間、場所及指導官

講習員	講習項目	講習期間	講習場所	講習指導官
小型潜水艦艦装員長、艦装員及同附豫定者	小型潜水艦乗員トシテ勤務上必要ナル事項	約一月半	海軍潜水學校	海軍潜水學校長

三 講習員及講習時期

講習員ハ小型潜水艦艦装員長、艦装員及艦装員附豫定者總員トシ員數及講習時期ハ別ニ之ヲ令達ス  
海軍省人事局長ハ前項ノ令達ニ基キ潜水艦艦装員及艦装員附豫定者ニ付講習員ヲ選定シ其ノ官職階氏名其ノ他所要事項ヲ海軍潜水學校長ニ通知スルト共ニ各部ニ配員中ノモノハ之ヲ海軍潜水學校附ト爲スモノトス

四 實施要領

左ニ依リ講習指導官ハ講習實施ノ細目ヲ定メ吳鎮守府司令長

官ノ承認ヲ得テ之ヲ實施スルモノトス

(イ) 講習指導官ハ講習員中ヨリ組ヲ編成シ主トシテ練習潜水艦(小型)ニテ訓練スルモノトス

(ロ) 部署内規類其ノ他作戰資料等ノ整備ニ關シテハ海軍潜水學校之ニ當ルモノトス

五 燃料及消耗品  
講習用燃料及消耗品ハ請求ヲ俟テ海軍省軍需局長ヲシテ別ニ指示セシム

六 報告

本講習ニ對スル報告ハ年二回ニ分チ六月及十二月之ヲ提出スルモノトス

七 旅費  
所要旅費ハ請求ヲ俟テ別途配付ス

官房教機密第一三〇號

左ノ各號ニ依リ臨時豫備士官通信術講習ヲ施行ス

昭和二十年三月十六日

海軍大臣

一 講習目的

普通科學生教程卒業直後ノ豫備士官ニ對シ將來交信指導員トシテ概ネ任務遂行ニ支障ナキ交信技能ノ基礎ヲ確立セシムルニ在リ

二 講習科目、講習期間、講習場所、講習指導官及實施細目

秘海軍公報 第四九六一號 昭和二十年三月十八日

二九五

1949





# 海軍公報 第四九六二號

昭和二十年三月十九日(月)  
海軍大臣官房

## 命令 達

達第四八號  
國有財産法實施手續中左ノ通改正ス  
昭和二十年三月十七日  
海軍大臣

## 主計長 給與主任 調査

第三條中「航空技術廠」ヲ「技術廠」ニ改ム  
別表中第一號及第四號ノ項中「建築部長」ヲ「施設部長」ニ改ム  
第七號、第九號及第十號ノ項ヲ夫々左ノ如ク改ム

七 工作物 置ニ限ル 有線通信装 機械器具 (工廠ニ屬ス) 工 廠 長 艦政本部長 ハ航空本部長又 艦政本部長	九 工作物 置ニ限ル 有線通信装 機械器具 (技術廠ニ屬ス) 技 術 廠 長 艦政本部長 航空本部長	十 工作物 置ニ限ル 有線通信装 機械器具 (航空廠ニ屬ス) 航 空 廠 長 艦政本部長 航空本部長
--	--	--

(參照) 會計法規類集四卷 五四五頁

内令第三二九號  
昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス  
昭和二十年三月十日  
海軍大臣

秘海軍公報 第四九六二號 昭和二十年三月十九日

第十二魚雷艇隊ノ項中「71」ヲ削ル  
第二十六魚雷艇隊ノ項中「819」「829」「831」「833」及「836」  
(内令提要卷三、四八ノ二七頁參照)

海軍大臣官房

内令第三三〇號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク  
魚雷艇 第七十一號魚雷艇  
第八百十九號魚雷艇  
第八百二十九號魚雷艇  
第八百三十一號魚雷艇  
第八百三十三號魚雷艇  
第八百三十六號魚雷艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク  
昭和二十年三月十日  
海軍大臣

海軍大臣

内令第三三一號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス  
昭和二十年三月十日  
海軍大臣

海軍大臣

<p>横須賀防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第十拓南丸(横)」ヲ、特設掃海艇ノ欄「第七昭和丸(横)」ヲ削ル                  第四南遣艦隊ノ項ヲ削ル                  父島方面特別根據地隊ノ項特設掃海艇ノ欄「慶南丸(横)」ヲ削ル                  第三十二特別根據地隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第十三京丸(吳)」ヲ削ル                  (内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)</p>	<p>内令第二三三二號                  汽船 首里丸                  右特設水雷母艦トシ吳鎮守府所管ト定メラルル處之ヲ解カル                  汽船 永福丸                  右特設砲艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メララルル處之ヲ解カル                  汽船 第十拓南丸                  右特設驅潛艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メラルル處之ヲ解ク                  同 第十三京丸                  右特設驅潛艇トシ吳鎮守府所管ト定メラルル處之ヲ解ク                  同 昭益丸                  同 星光丸                  右特設捕獲艇トシ佐世保鎮守府所管ト定メラルル處之ヲ解ク                  同 慶南丸                  同 第七昭和丸                  右特設掃海艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メラルル處之ヲ解ク</p>	<p>同 旭東丸                  同 讚岐丸                  同 夕ラカン丸                  同 日榮丸                  同 球磨川丸                  同 日帝丸                  同 衣笠丸                  同 慶洋丸                  同 正生丸                  同 たるしま丸                  同 東照丸</p>	<p>右特設運送艦トシ吳鎮守府所管ト定メラルル處之ヲ解ク                  右特設運送艦トシ舞鶴鎮守府所管ト定メラルル處之ヲ解ク                  右特設運送艦(給油船)トシ横須賀鎮守府所管ト定メラルル處之ヲ解ク                  右特設運送艦(給油船)トシ吳鎮守府所管ト定メラルル處之ヲ解ク                  右特設運送艦(給油船)トシ舞鶴鎮守府所管ト定メラルル處之ヲ解ク                  右特設運送艦(給炭船)トシ横須賀鎮守府所管ト定メラルル處之ヲ解ク                  右特設運送艦(雜川船)トシ横須賀鎮守府所管ト定メラルル處之ヲ解ク</p>
--	---	---	---

1952

<p>右特設運送船(雑用船)トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク</p> <p>同 興東丸</p> <p>同 岩戸丸</p> <p>昭和三十二年三月十日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>右特設運送船(雑用船)トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク</p> <p>昭和三十二年三月十日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第二三三號</p> <p>右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル</p> <p>第七十一號海防艦</p> <p>吳鎮守府在籍</p> <p>第七十一號海防艦</p> <p>昭和三十二年三月十一日</p> <p>海軍大臣</p>	<p>内令第二三四號</p> <p>艦船造修規則中左ノ通改正ス</p> <p>昭和三十二年三月十三日</p> <p>海軍大臣</p> <p>第七條中「海軍航空技術廠長」ヲ「海軍技術廠長」ニ改ム</p> <p>第二百十八條中「海軍航空技術廠」ヲ「海軍技術廠」ニ改ム</p>
<p>内令兵第九號</p> <p>兵器造修規則中左ノ通改正ス</p> <p>昭和三十二年三月十七日</p> <p>海軍大臣</p>			
<p>第八條、第九條、第十二條、第十五條、第十九條、第二十條、第二十二條、第二十三條、第二十七條乃至第三十二條、第三十六條、第三十七條乃至第四十二條、第四十四條乃至第四十八條、第五十四條ノ二、第五十五條乃至第五十七條、第二百二十四條、第二百二十六條、第二百二十九條、第二百二十九條ノ二、第三百二十二條乃至第三百三十四條及第四百四十七條乃至第四百四十九條中「海軍航空技術廠長」ヲ「海軍技術廠長」ニ改ム</p> <p>第十五條、第十七條乃至第十九條、第二十三條、第二十四條、第三十四條、第三十九條、第五十三條、第五十四條ノ二、第五十五條、第六十三條、第三百三十條及第二號表乃至第四號表中「海軍航空技術廠」ヲ「海軍技術廠」ニ改ム</p> <p>官房第一三八號</p> <p>大東亞戰爭中普通通行章ハ服裝ニ之ヲ附著セザルモノトス</p> <p>本達ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス</p> <p>昭和三十二年三月十七日</p> <p>海軍大臣</p>			
<p>○通 牒</p> <p>(海軍服裝令第二十條及第三十一條參照)</p> <p>昭和三十二年三月十七日</p> <p>海軍大臣</p>			

秘海軍公報 第四九六二號 昭和三十二年三月十九日

二九九

1953

軍務一第四一號

昭和二十年三月十七日

海軍省軍務局長  
海軍省軍需局長

關係各廳長殿

普通善行章ノ臂章交付停止等ノ件通牒

官房第一三八號ヲ以テ大東亞戰爭中普通善行章ヲ附著セザル  
コトニ定メラレタルニ伴ヒ來四月一日以後同臂章ノ交付ハ之ヲ  
停止スル義ト了知相成度  
尙普通善行章ヲ附著セザルモ其ノ付與手續及履歴表ノ記註等ニ  
付テハ從來通ニ付爲念申添候

軍需第一六號

昭和二十年三月十八日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

衣糧品電報略語追加ノ件通知

昭和九年官房第一二七五號別冊衣糧品電報略語中別表ノ通追加  
セラレ候  
(別表添)

○雜 款

○事務開始

三〇〇

事務所名	設置場所	事務開始日	電話	記 事
第二〇五海軍航空隊	臺中州臺中航空基地	二月五日		附屬飛行隊 職階第三飛行隊 第三飛行隊 第三飛行隊
海防總務所 唐藏裝具事務所	神奈川縣須賀川市谷式會社浦賀造船所内	二月九日		
第八潜水艦隊司令部 總務整理班 事務所	部内 第十五根拠地隊司令所内	二月二〇日		二月二〇日解散
關送艦艇裝具員事務所	大阪府住吉區榮谷町藤永町造船所内	三月一日		
第八十三號海防艦裝具員事務所	大坂市大正區船町八番地協和造船株式會社内	三月一日		
第八十五號海防艦裝具員事務所	播磨造船所内	三月一日		
第二十一聯合航空隊司令部	松山海軍航空隊内	三月一日		

○轉勤者赴任先

自今當隊ヘノ轉勤者ハ左ニ依リ赴任センメラレ度

第七五二海軍航空隊 偵察第七〇九飛行隊 千葉縣本更津航空基地

(第七五二海軍航空隊)

○本日海軍公報發行セズ

1954



秘

# 海軍公報

第四九六三號

海軍大臣官房

昭和二十年三月二十日(火)

○令 達

内令第二三六號

伊號第十四潜水艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府卜定メラル

昭和二十年三月十四日

海軍大臣

内令第二三七號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年三月十四日

海軍大臣

第一潜水隊ノ項中「伊號第十三、」ノ下ニ「伊號第十四、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

内令第二三八號

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年三月十五日

海軍大臣

第五十二驅逐隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

秘海軍公報 第四九六三號 昭和二十年三月二十日

第五十三驅逐隊 櫻、椿、柳、橘、樟

(内令提要卷一、六八頁参照)

官房教機密第一三六號

昭和二十年四月上旬採用豫定ノ一般兵科豫備學生、生徒ハ左ノ各號ニ依リ軍事教育(専修別軍事教育ヲ除ク)ヲ實施ス

昭和二十年三月十八日

海軍大臣

一 實施場所及員數

番號	場所	員數
一	旅順方面特別根據地隊	約 五〇〇
二	海軍潜水學校	約 五〇〇

二 教育期間

昭和二十年四月上旬ヨリ昭和二十年八月末日ニ至ル約五月間トス

三 旅順方面特別根據地隊ニ於テ教育ヲ擔當スル同隊附タル職員中首席ノ兵科將校ヲシテ教育準備、實施、同教育ノ爲配セラレタル教官及附並ニ豫備學生及豫備生徒ノ人事ニ關シ所轄長ニ準ジ服務セシムルコトヲ得

三〇一

1955

官房人機密第一六七號

昭和二十年三月十九日

海軍大臣

横須賀鎮守府司令長官殿

工作科豫備補習生採用ノ件告達

左ノ各號ニ依リ工作科豫備補習生ヲ採用スベシ

一 採用範圍

大日本潜水協會潜水技術員養成所出身者ニシテ昭和二十年十一月三十日ニ於テ年齢十六年以上二十年未滿ノモノ

二 出願期限

昭和二十年三月二十日

三 身體検査及口頭試問ノ時期及場所

(イ) 時期

昭和二十年四月上旬

(ロ) 場所

横須賀鎮守府司令長官ノ定ムル場所

四 採用時期及採用員數

(イ) 時期

昭和二十年四月上旬

(ロ) 員數

約五〇名

五 入團時期及場所

(イ) 時期

昭和二十年三月十九日

昭和二十年四月上旬  
濱名海兵團

(ロ) 場所

官房教機密第一三八號

海軍部隊練習生教育規程中左ノ通改正ス

昭和二十年三月十九日

海軍大臣

第二條表中末尾ニ左ノ如ク加フ

海安	浦	普通科信號術練習生
兵相	浦	
國舞	鶴	

第八條中「又ハ司令」ヲ「司令又ハ團長」ニ改ム

(内令提要卷二、五〇八ノ一参照)

○ 通 牒

教育機密第二二九號

昭和二十年三月十二日

海軍省教育局長  
海軍省人事局長

高雄警備府參謀長殿

特別志願兵及徴兵(本島出身)ノ新兵教育等

ニ關スル件申進

海人三機密第一號ノ二七ヲ以テ高雄警備府在籍者ノ内地所在學

校等ニ於テ教育ヲ實施スベキ普通科各種練習生ハ當分ノ間之ヲ採用セザルコトニ定メラレタルヲ以テ昭和十九年教育機密第三三一號申進ニ依ル工作兵及衛生兵ノ教育實施要領ニ關シテハ普通科練習生ノ採用ヲ開始セラルル迄左記ニ依リ之ヲ新兵教育實施ノコトニ改メラレ候

記

- 一 新兵教育期間ヲ約六月トス
- 二 海兵團ニ於ケル教育中ニハ一部當該術科ノ教育ヲ實施ス
- 三 新兵教程修業者ハ特技兵講習員ニ採用セラルル者ヲ除キ各部ニ配員ス

艦本機密第一一號ノ三五八七  
海軍艦政本部複寫本各條ノ制定及改正ノ理由竝ニ註譯中左ノ通改正ス

昭和二十年三月十三日

海軍艦政本部長

第三條(註二)、第五十六條(改三)、第四百七條(註)及第四百十八條(註)中「航空技術廠」ヲ「技術廠」ニ改ム  
第五十六條(改二)及第四百二十四條(註三)中「航空技術廠長」ヲ「技術廠長」ニ改ム

艦本機密第一一號ノ三五八八  
海軍艦政本部複寫本艦船造修規則各條ノ制定及改正ノ理由、註譯等中左ノ通改正ス

昭和二十年三月十三日

海軍艦政本部長

第三條(註二)中「航空技術廠」ヲ「技術廠」ニ改ム

○雜 款

○隊名變更

博多海軍航空隊天草分遣隊ハ三月一日天草海軍航空隊トナレリ尙當隊所在地ハ交通極メテ不便ナルニ付至急ヲ要スル郵便物ハ凡テ速達又ハ電報ニ依ラレ度  
轉勤者ハ左ノ要領ニ依リ赴任セシメラレ度  
一 門司鹿兒島方面ヨリハ鹿兒島本線熊本驛乘換三角線三角驛下車船便ニテ大浦又ハ本渡ニテ下船當隊々門迄バス便アリ  
但シ三角線發佐伊津(當隊所在地)直行使ハ偶數日ノミ出航ス  
二 佐世保方面ヨリハ島原線口ノ津驛下車船便ニテ鬼池下船當隊々門迄バス便アリ  
(天草海軍航空隊)

○事務開始

事務所名	設置場所	事務開始日	電 話	記 事
臺灣海軍航空隊司令部	臺灣新竹十八尖山	二月五日		二月五日
第十一、第二十五航空隊司令殘務整理班	鹿兒島縣鹿屋市鹿屋航空基地氣付ウ五七六内	二月〇日		二月一〇日解散
第四海上護衛隊司令部	第九五一海軍航空隊指宿派遣隊内	三月七日		

宮崎地方海軍人事  
部(假稱)設立準備  
事務所  
宮崎市別府町一〇三番  
地宮崎縣絲會館内  
三月二〇日  
四月一日  
開館豫定

○正誤

三月二日附秘海軍公報四九四六號通牒欄二二七頁經給第四〇號  
一ノ二中「人事局長、人事部長、當該所屬長等」ハ「人事局  
長又ハ人事部長」ノ誤

○本日軍極秘海軍公報第一〇三號(乙配付)發行セリ  
配付先

關係各司令部、各航空隊、同分遣隊、各航空廠(特設ヲ含  
ム)、同支廠、第一、第二各海軍技術廠、同支廠、沼津海軍  
工廠、關係各艦船

1958



秘

海軍公報 第四九六四號

昭和二十年三月二十二日

海軍大臣

○令 達

内令第二三五號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

第四十八號海防艦

昭和二十年三月十三日

海軍 大 臣

内令第二三九號

昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分等ヲ定ムルノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年三月十五日

海軍 大 臣

「又ハ分院」ノ下ニ「及特設海軍衣糧廠支廠」ヲ加フ表ノ末尾ニ左ノ如ク加フ

上海海軍衣糧廠	青島	所在地方面ニ於ケル上海海軍衣糧廠ノ所掌ニ屬スル事項ノ一部ヲ分掌ス
---------	----	----------------------------------

(内令提要卷一、三八ノ四一頁参照)

内令第二四〇號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

海防艦 金 輪

第一百九十四號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

佐世保鎮守府在籍

海防艦 金 輪

第一百九十四號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年三月十五日

海軍 大 臣

内令第二四一號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年三月十五日

海軍 大 臣

第一南遣艦隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百十七號(横)」ノ前ニ「第六十二號(舞)」ヲ、掃海特務艇ノ欄「第九號(横)」ノ前ニ「第七號(横)」ヲ加フ  
第二遣支艦隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二十四號(佐)」ノ次ニ「第



秘海軍公報 第四九六四號 昭和二十年三月二十二日

三〇五

1960

百九十一號(高)、百九十二號(高)、第二百四號(高)、第二  
十號(高)、第二百二十八號(高)、第二百三十五號(高)ヲ加フ  
馬公方面特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百二十八號  
(高)、第二百三十五號(高)」ヲ削ル  
第二十七特別根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第六十一號(舞)」  
ヲ削ル

第三十一特別根據地隊ノ項掃海特務艇ノ欄「第七號(横)」ヲ削ル  
高雄海軍警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「百九十一號(高)、第百  
九十二號(高)、第二百四號(高)、第二百十號(高)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第二四二號

昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年三月十五日

海 軍 大 臣

第三南遣艦隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第二鈴谷丸(吳)」及「新安  
丸(舞)」ヲ削ル

第十六警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「第十八日東丸(吳)」ノ次ニ

「第二鈴谷丸(吳)、新安丸(舞)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

官房人機密第一六八號

特務士官、准士官、下士官及兵中海軍通信學校高等科電信術

(航空兵器班)練習生教程ヲ卒業シ航空無線兵器ノ調整整備ノ動  
務ニ従事セシムルヲ適當ト認ムル者ハ之ヲ海軍練習航空隊高等  
科兵器整備術(航空無線兵器整備術)練習生教程ヲ卒業シタル  
モノト看做ス之方取扱ニ關シ左ノ通定ム

昭和二十年三月十九日

海 軍 大 臣

一 特務士官及准士官ニ在リテハ准士官ニ進級ノ際高等科掌電  
信兵(航空兵器班專修)タリシ者ハ全員之ヲ高等科兵器整備  
術(航空無線兵器整備術)練習生ノ教程ヲ卒業シタル者ト看  
做ス但シ准士官ニ進級以後他ノ特別技術ヲ修得シタル者又ハ  
領守府司令長官ニ於テ特ニ掌航空兵器兵(航空無線兵器整備  
術專修)出身者ト爲スヲ適當ト認メザル者ヲ除ク

二 下士官及兵ニ在リテハ高等科電信術(航空兵器班)練習生  
ノ教程ヲ卒業シ現ニ其ノ特技章ヲ有スル者ハ全員之ヲ高等科  
兵器整備術(航空無線兵器整備術)練習生ノ教程ヲ卒業シタ  
ル者ト看做ス

三 領守府司令長官ハ昭和二十年四月一日現在ヲ以テ前二號ノ  
該當者ニ付之方特修別又ハ特修兵別ヲ變更スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ准士官以下ノモノニ對シテハ之ヲ同日附現  
官階階ト同等ノ整備科ノ准士官、下士官又ハ兵ニ轉科セシメ  
若ハ兵種ヲ變更スルモノトス但シ整備科ニ轉科シタル准士官  
ノ席次ハ少尉ニ任用ノトキ迄仍從前ノ例ニ依ル

四 高等科掌航空兵器兵(航空無線兵器整備術專修)ト爲リタ

1961

ル下士官及兵ノ特技章ノ成績順位ハ高等科電信術(航空兵器班)練習生教程ノ卒業成績順位ニ依ル

五 第三號ノ規定ニ依リ其ノ特修別又ハ特修兵別ヲ變更シタル者ノ履歴記註ハ左ニ依リ之ヲ朱書ス

(イ) 特務士官

年月日 昭和二十年官房人機密第一六八號ニ依リ高等科兵器整備術(航空無線兵器整備術)練習生教程ヲ卒業シタルモノト看做ス

(ロ) 准士官、下士官又ハ兵

年月日 昭和二十年官房人機密第一六八號ニ依リ高等科兵器整備術(航空無線兵器整備術)練習生教程ヲ卒業シタルモノト看做ス

同日 任海軍整備兵曹長(轉科任用)

又ハ(任海軍等整備兵曹(轉科任用)海軍整備兵長(上等整備兵)ト爲ル

○ 通 牒

艦本機密第一六號ノ三四七七

昭和二十年三月二十一日

海軍省軍需局長  
海軍艦政本部總務部長  
海軍航空本部總務部長

關係各工作廳長殿

技術分科研究會ニ關スル件照會

祕海軍公報 第四九六四號 昭和三十年三月二十二日

首題ノ件現戰局ニ鑑ミ當分ノ間之ヲ中止シ必要アル場合特例ニ依リ開催スルコトニ定メラレ候

○ 雜 款

横運第一三七號

昭和二十年三月九日

横須賀海軍運輸部

關係各廳御中

横須賀、館山、木更津間定期船運行中止ノ件

通知

横運機密第五號ノ一四二ニ依ル定期船ハ三月十三日以後當分ノ間運航中止致候

追テ滯貨アル向ハ海上運輸規程ニ依リ當部ニ請求相成度

(昭和十九年十月二日横鎮公報甲(部内限)参照)

○ 事務開始

事務所名	設置場所	事務開始月日	電話	話	記事
伊號第四百二潜水艦隊員事務所	佐世保海軍工廠内	三月七日	工廠	一七六	
艦隊初級機務員事務所	横須賀海軍工廠(小海(ボーン)前)内	三月二〇日			
第三百五十二設營隊	吳市廣町吳海軍施設部廣路宿舎内	同 右			進出機定
攻撃第七〇八飛行隊	宇佐海軍航空隊内	同 右			三月二〇日基地移轉

○ 事務所撤去



事務所名	撤去月日	記事
第五百十六號海防艦艦裝員事務所	三月八日	
第七十一號海防艦艦裝員事務所	三月一二日	
伊號第十四潜水艦艦裝員事務所	三月一四日	

○轉勤者赴任先  
 當隊へノ轉勤者ハ宇佐海軍航空隊（日豊本線柳ヶ浦驛下車）ニ  
 向ケ赴任セシメラレ度  
 追テ家族移轉料支給上ノ勤務地ハ茨城県東茨城郡橋村トス  
 （攻撃第七〇八飛行隊）

合同海軍葬儀執行			
期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	喪葬管理者	場所
三月二十三日 〇九二〇	故海軍大佐平田太郎外諸勇士	佐世保海軍人事部長	佐世保市海軍凱旋記念館 佛式
三月二十六日 一〇〇〇	故海軍中佐橋本虎男外諸勇士	福岡地方海軍人事部長	福岡市縣公會堂 同
三月三十日 〇九〇〇	故海軍中佐山下吉盛外諸勇士	鹿兒島地方海軍人事部長	鹿兒島市西本願寺 同
三月三十一日 一〇〇〇	故海軍兵曹長永井英仁外諸勇士	鎮海海軍人事部長	鎮海島海仁會集會所 神式
四月九日 一〇〇〇	故海軍囑託中西恒雄外諸勇士	鎮海海軍人事部長	京城府府民館 同

○本日海軍公報發行セズ

1963

秘

海軍公報 第四九六五號

昭和二十年三月二十三日(金) 海軍大臣

○ 令 達

内令第二四三號

昭和十八年内令第一五〇五號中左ノ通改正ス

昭和二十年三月十六日

海軍大臣

別表第一號甲船體ノ部中「軍艦(除砲艦)ノミ」ヲ「軍艦ノミ」ニ改ム

別表第二甲船體ノ部中「海防艦、」ノ下ニ「輸送艦、」ヲ加フ

(参照) 昭和十八年内令第一五〇五號ハ大東亞戰爭中艦艇、特務艦艇ノ船體部完成書類ノ調製並ニ提出(送付)ニ關スル件ナリ(内令提要三卷一二二ノ四ノ一)

内令第二四四號

船團信號教範並ニ操式草案別冊ノ通定ム

別冊ハ海軍文庫ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和二十年三月十九日

海軍大臣

内令第二四五號

海軍暗號教範別冊ノ通改正ス

海軍大臣

別冊ハ海軍文庫ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和二十年三月十九日

海軍大臣

内令第二四六號

特設艦船部隊令中左ノ通改正セララル

昭和二十年三月二十日

海軍大臣

第四十九條ノ十六第二項中「規定」ノ下ニ「及防備戰隊令第七條ノ規定」ヲ加フ

(内令提要卷一、五六頁参照)

官房人機密第一五二號

本年三月十日現在第四南遣艦隊司令部職員タル者ハ特ニ發令セラルルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ第十方面艦隊司令部ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年三月十日

海軍大臣

官房教機密第一三九號

海軍部隊練習生教育規程中教務標準別表其ノ六ヲ別表ノ如ク改

海軍大臣

秘海軍公報 第四九六五號 昭和二十年三月二十三日

三〇九

1964

メ別表其ノ七トシテ別表ヲ加フ

昭和二十年三月二十日

海軍大臣

(別表添)

(内令提要卷二、五〇八ノ三頁参照)

○通牒

官房機密第一三四號ノ二六

昭和二十年三月十五日

海軍省副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セラルルモノヲ除キ別冊暗號圖書現狀表第四八號ニ依リ處理相成度

(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

教育機密第一三九號

昭和二十年三月十八日

海軍省教育局長  
海軍省人事局長

各鎮守府參謀長  
聯合艦隊參謀長 殿

新造驅逐艦及海防艦乘員豫定者講習ニ關スル件申進

當分ノ間新造驅逐艦及海防艦乘員豫定者ニ對スル講習ニ關シ左記ノ通定メラレ候

記

一 本講習ハ驅逐艦及海防艦裝員(附)豫定者シテ裝員(附)任命前途ニ各自ノ配置ニ對スル任務遂行ニ遺憾ナキ練度ヲ得シムルヲ目的トシ練成教育實施中ノ驅逐艦又ハ海防艦ニ乗船セシムルモノトス

二 講習科目

各配置毎ニ直接必要ナル事項

三 講習員

驅逐艦又ハ海防艦裝員(附)豫定者タル特務士官(水)並ニ水兵科ノ准士官、下士官及兵トシ准士官以上ハ概ネ總員下士官及兵ハ重要配置ニ充ツベキ者

四 講習場所及講習指導官

講習員ノ區分	講習場所	講習指導官
驅逐艦裝員(附)豫定者	第十一水雷戰隊所屬各艦	第十一水雷戰隊司令官
海防艦裝員(附)豫定者	對潛訓練隊所屬各艦	對潛訓練隊司令官

五 講習期間

一月トシ講習開始期日ヲ毎月一日及十五日トス

六 講習員ノ取扱

(イ) 驅逐艦裝員(附)豫定者ニ對シテハ第十一水雷戰隊司令部附、海防艦裝員(附)豫定者ニ對シテハ對潛訓練隊

1965

附ヲ命ズルモノトス  
 (ロ) 各海軍人事部長ハ講習員ノ講習終了後ニ於ケル配員豫定艦名ヲ第十一水雷戰隊司令官又ハ對潛訓練隊司令ニ通知スルト共ニ寫ヲ海軍省人事局長ニ送付スルモノトス  
 七 本講習ニ對スル報告ハ年二回ニ分チ六月及十二月之ヲ提出スルモノトス

航本機密第一八六七號  
 昭和二十年三月五日

海軍航空本部總務部長

關係各廠長殿

冗用兵器還納ニ關スル件照會

艦船部隊ニ供用中ノ航空機用搭載兵器ニシテ定數以外ノモノ並ニ當分使用機會ナキモノハ極力最寄海軍航空廠ニ還納ノコトニ取計相成度

海軍航空廠ハ右還納兵器ノ品名數量ヲ取纏メ海軍航空本部ニ通報相成度

○雜 款

合同海軍葬儀執行		○司令潜水艦變更 第十九潜水隊司令ハ三月五日司令潜水艦ヲ伊號第五百五十五潜水艦ニ變更セリ (第十九潜水隊)	
期日及時刻	大東亞戰爭戰歿者	部 隊 名	所 在 地
四月十四日一二〇〇	故海軍兵曹長丸山幸太郎外諸勇	第七〇六海軍航空隊	千葉縣木更津航空基地
	長野地方海軍人事部長		三月五日
	喪葬管理者		第一〇三海軍航空隊ハ三月五日附隊セリ同隊殘務整理ハ當隊内ニ於テ之ヲ行フ道テ當隊ハ三月十五日以降松島航空基地ニ移動ス
	場 所		撤去月日
	長野市藏春閣		三月二十日
	佛 式		記 事
			○事務所撤去 第五百五號海防艦艇裝具務所 三月二十日 一時裝裝中止
			○轉勤者赴任先 當隊ヘノ轉勤者ハ島根縣簸川郡西村國民學校(山陰線直江驛下車徒歩約一時間)ニ向ケ赴任センメラレ度 (第三百三十八設營隊)

秘海軍公報 第四九六五號 昭和二十年三月二十三日

1966

四月十七日	一〇二五	故海軍中尉高田榮七郎外諸勇士	静岡地方海軍人事部長	静岡市公會堂	佛式
四月二十日	一一〇〇	故海軍中佐端井 淳外諸勇士	宇都宮地方海軍人事部長	宇都宮市縣教育會館	同
四月二十日	一〇三〇	故海軍少將中村 馨外諸勇士	盛岡地方海軍人事部長	盛岡市縣公會堂	同
四月二十日	一〇三〇	故海軍大尉佐々木耕策外諸勇士	仙臺地方海軍人事部長	仙臺市東本願寺	同
四月二十五日	一三〇〇	故海軍大尉小林吉之助外諸勇士	秋田地方海軍人事部長	秋田市縣記念會館	同
四月二十八日	一〇三〇	故海軍中尉小熊康之外諸勇士	前橋地方海軍人事部長	前橋市群馬會館	同
四月二十七日	一〇三〇	故海軍衛生大尉馬場長造外諸勇士	福島地方海軍人事部長	福島市市公會堂	同

1967

(官房教機密第一三九號別表其ノ七)

(昭和二十年三月二十三日祕海軍公報)

科補	科										科				
	電測	普通	航空	潜水	電機	機雷	術			兵器		目			
							音	投	水						
陸戰教練、武技、體操、體技、手旗、旗旛信號法、見張法、應急ノ大要、短艇操縱法、手先信號法、救急法	電測	普通	航空	潜水	電機	機雷	音	投	水	操	兵器	項目	目	日數	
	電測兵器ノ大要	電氣音響學ノ初步	航空機ノ大要	潜水艦ノ大要	電氣磁氣、對潛關係電氣兵器ノ大要	機雷ノ大要、防潜網ノ大要、掃海具ノ大要、防雷具ノ大要	音感ノ大要、水中音ノ大要	投射實習見學	水測理論ノ大要、衛所水測法、發火管制法ノ大要、聽音機雷敷設法大要、磁氣探知器設置ノ大要、衛所水測實習、發火管制實習、艦艇	衛所水測操法、發火管制操法、投射操法ノ大要	衛所水測兵器、衛所水測指揮裝置、爆雷ノ大要及投射裝置ノ大要、艦艇水測兵器ノ大要				

1968





# 海軍公報

第四九六六號

昭和二十年三月二十四日(土)

海軍大臣 眞房

## ○令 達

内令兵第一〇號

昭和十一年内令兵第四五號中左ノ通改正シ昭和二十年二月十五日ヨリ之ヲ適用ス

昭和二十年三月二十二日

海軍大臣

## (一) 呼稱番號區分中

第二高雄海軍航空隊	2タカ
虎尾海軍航空隊	コビ

及

## (二) 第二臺灣海軍航空隊

2タイ フ削ル

(参照) (前記内令兵ハ航空機番號付與法及其ノ表示方ヲ定ムル件ナリ) (内令提要卷三、二二六頁)

内令兵第一一號

昭和十一年内令兵第四五號中左ノ通改正シ昭和二十年三月一日ヨリ之ヲ適用ス

昭和二十年三月二十二日

海軍大臣

## (二) 呼稱番號區分中

百里原海軍航空隊	リ	百里原海軍航空隊	リ
大和海軍航空隊	ヤマ	大和海軍航空隊	ヤマ
大村海軍航空隊	オ	大村海軍航空隊	オ
高知海軍航空隊	カチ	高知海軍航空隊	カチ
博多海軍航空隊	ハタ	博多海軍航空隊	ハタ
諒間海軍航空隊	タク	諒間海軍航空隊	タク
東京海軍航空隊	トウキョウ	東京海軍航空隊	トウキョウ
岩國海軍航空隊	イワノク	岩國海軍航空隊	イワノク
福山海軍航空隊	フクヤマ	福山海軍航空隊	フクヤマ
天草海軍航空隊	アマクサ	天草海軍航空隊	アマクサ
西條海軍航空隊	サイジ	西條海軍航空隊	サイジ
諒早海軍航空隊	リョウサ	諒早海軍航空隊	リョウサ
觀音寺海軍航空隊	カン	觀音寺海軍航空隊	カン
大和山海軍航空隊	ミネ	大和山海軍航空隊	ミネ

秘海軍公報 第四九六六號 昭和二十年三月二十四日

三一三

1970



釜山海軍航空隊 フサ  
光州海軍航空隊 コウ

第二相模野海軍航空隊 2サカ  
田浦海軍航空隊 タウラ

松山海軍航空隊 マツ  
奈良海軍航空隊 ナラ  
高野山海軍航空隊 コヤ  
西ノ宮海軍航空隊 ニシ  
寶塚海軍航空隊 タカ  
宇和島海軍航空隊 ウツ

第一出水海軍航空隊 1イツ  
國分海軍航空隊 コク

(参照) 前記内令兵ハ航空機番號付與法及其ノ表示方ヲ定ムル件ナリ (内令提要卷三、三二六頁)

官房軍機密第二八二號  
陸海軍氣象委員會規約中左ノ通改正ス

昭和二十年三月一日

別表中海軍ノ項「軍務局局員 二」ヲ「軍務局局員 四」ニ改

海軍大臣 陸軍大臣

メ同「兵備局局員 二」ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ六四ノ一三頁参照)

官房軍機密第四五六號

大東亞戰爭中自動車ノ處理ニ關シ左ノ通定ム

昭和二十年三月二十二日

海軍大臣

- 一 通常物品會計官吏又ハ兵備品會計官吏ハ其ノ保管ニ係ル艦政本部兵器自動車(戰車、裝甲自動車及土建用ヲ除ク)及艦營需品若ハ通常物品各種自動車(自動自轉車ヲ含ミ戰車、裝甲車、土建用特殊車輛ヲ除ク)ヲ航空兵器經理規程別表第七號ノ區分ニ從ヒ之ヲ海軍航空廠(海軍航空廠支廠ヲ含ム)ノ兵備品會計官吏ニ保管轉換スベシ
- 二 海軍航空廠長(海軍航空廠支廠長ヲ含ム)ハ保管轉換ヲ受ケタル自動車ヲ航空兵器トシテ受入整理ノ上現使用中ノ各廳ニ供給セシムルト共ニ其ノ品名及數量ヲ海軍航空本部長ニ通報スベシ
- 三 海軍省軍需局長及海軍艦政本部長ハ海軍軍需部保管ノ自動車全數量ヲ海軍航空本部長ニ移牒スルモノトス
- 四 通常物品廳タル各廳ニ於テ使用スル自動車ノ定數ハ兵器簿ニ依リ之ヲ定メ之ヲ取扱主任ハ兵備品會計規程別表備考第一號ヲ準用スルモノトス
- 五 自動車ノ造修及補給主務廳ヲ海軍航空本部トス本令施行ノ

1971

期間自動車ハ總テ航空兵器トシテ處理スルモノトス  
附則  
本號ハ昭和二十年四月一日ヨリ之ヲ實施ス

○通 牒

官房軍機密第二七二號  
昭和二十年三月二十日

海 軍 次 官

關係各廳長殿

空襲被害對應措置ニ關スル件申進

空襲被害頻發且増大ノ現況ニ於テ其ノ復舊及救護、給養等ヲ主務官廳及民ノミニ委シ置クトキハ時機ヲ失シ或ハ措置ノ及バザル場合ヲモ考慮セラルルヲ以テ最寄願ニ於テ諸情況ヲ勘案シ主務官廳及陸軍官憲ト協議ノ上機ヲ失セズ機宜ノ援護措置ヲ採リ軍官民緊密協力ノ實ヲ擧グルニ努メラレ候

官房機密第一二一號

昭和二十年三月二十三日

海 軍 省 副 官

在京各廳長殿

海軍省芝分室設置ノ件通牒

來四月一日以降東京水交社施設ノ一部ヲ海軍省ニ於テ有料借用ノ上同施設ヲ海軍省芝分室ト呼稱シ左記要領ニ依リ使用ノコトニ定メラレ候

祕海軍公報 第四九六六號 昭和二十年三月二十四日

記

部 名	管 理 廳	使 用 方 針
會議部	海軍大臣官房	在京海軍各廳ノ主催スル公務ノ集會及會議ハ舊館ノミニ限ルモノトス
宿泊部	海軍省經理局	左ノ者ノ一時宿泊所トシテ使用ス 一 現復海軍高等武官 二 召集中ノ海軍高等武官 三 海軍高等文官
食卓部	海軍省經理局	宿泊部宿泊有資格者及海軍省副官ノ特ニ承認シタル者ノ食卓部トシテ使用ス但シ宴會ハ一切之ヲ認メラズ尙狀況ニ依リテハ併米セシメラルコトアルベシ

海人三機密第一號ノ六六  
昭和二十年三月二十日

海 軍 省 人 事 局 長

各領守府參謀長  
領海警備府參謀長  
高尾警備府參謀長  
殿

築城施設關係ノ工作兵ヲ技術兵ニ轉科ノ件申進  
鎮守府司令長官及警備府司令長官ハ左記ニ依リ在籍ノ工作兵ヲ技術兵ニ轉科セシムルコトニ定メラレ候

記

- 一 築城施設關係ノ工作兵ニシテ技術兵ニ轉科セシムベキモノノ範圍ヲ左ノ通トス
- (イ) 補充兵及國民兵タル應召員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ
- (一) 召集ノ際施設關係要員タル工作兵トシテ選兵シ之ニ必



秘

海軍公報 第四九六七號

昭和二十年三月二十六日(月)  
海軍大臣官房

○令 達

内令第二四八號(軍機秘海軍公報第一〇五號(甲配付)ニ掲載)

内令第二四九號

吳鎮守府豫備潜水艦

波號第七七潜水艦

右練習兼警備潜水艦ト定メラル

昭和二十年三月二十日

海軍大臣

内令第二五〇號

潜水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年三月二十日

海軍大臣

第十五潜水隊ノ項中「伊號第五十八」ノ下ニ、「伊號第三百六十一、伊號第三百六十二、伊號第三百六十三、伊號第三百六十六、伊號第三百六十七、伊號第三百六十八、伊號第三百七十、伊號第三百七十一」ヲ加ヘ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第十六潜水隊

一、伊號第三百六十九、伊號第三百七十二、波號第三百一、波號第三百二、波號第三百四

第三十三潜水隊ノ項中「波號第六六」ノ下ニ、「波號第七七」

秘海軍公報 第四九六七號 昭和二十年三月二十六日

ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

○通 牒

官房軍機密第二八八號

昭和二十年三月二十六日

海軍次官

各廳長殿

空襲罹災地其ノ他災害混亂等生起地ニ於ケル  
指揮ニ關スル件中進

自今空襲罹災地其ノ他災害混亂等生起地ニ於テ之方急速措置ヲ要スル場合ハ指揮系統ノ有無ニ拘ラス何分ノ令アル迄所在先任者之方指揮ニ任ズルコトニ定メラレ候尙各鎮守府司令長官又ハ各警備府司令長官ニ於テ要スレバ右適用地域區分及豫定指揮者等ヲ豫メ指示セラレ豫定指揮者ノ腹案樹立ニ資セラレ度内意ニ候

運本機密第二九三號

昭和二十年三月十日

海軍運輸本部長

關係各廳長殿

三一七

1974

海上輸送請求票乙ノ送付廢止ニ關スル件照會

中央配船計畫ニ依リ海上輸送ヲ要スベキ人員物件ノ輸送請求手續ニ關シテハ昭和十九年十月二十日逕本機密第一五五四號（十月二十七日海軍公報掲載）ヲ以テ從來ノ昭和十八年八月二日逕本機密第一號所定ノ海上輸送請求票甲及乙ニ代ヘ海上（内地）輸送請求票ニ依ルコトト致候處依然當部宛海上輸送請求票乙ヲ送付セラルル向抄カラザルニ付留意相成度

○雜款

○事務開始

事務所名	設 置 場 所	事務開始月日	電話	記事
第百九十四號海防監官事務所	長崎三菱重工業株式會社海軍監官事務所内	二月三日		
送艦機務員事務所	大坂市住吉區榮谷町四四藤永田造船所内	三月一日		
第百九十八號海防艦艇裝具事務所	長崎海軍監督官事務所内	三月八日		
第七十五號海防艦艇裝具事務所	富山縣富山市西宮七一日本海船渠工業株式會社内	三月二日		
第四十四、第四十五、第四十六魚雷調整班	田浦海軍航空隊内	三月五日		
第三百設營隊	大船局氣付横濱市戸塚區桂町	三月五日		
特務總大指艦裝具事務所	横濱市西區綠町三丁目四三三菱工業株式會社横濱造船所内	三月五日		

○本日軍機秘海軍公報第一〇五號（甲配付）發行セリ

○本日海軍公報發行セズ

1975

秘

# 海軍公報

第四九六八號

昭和二十年三月二十七日(火)

海軍大臣官房

○令 達

内令第二四七號(軍機秘海軍公報第一〇六號(乙配付)ニ掲載)

内令第二五一號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年三月二十日

海軍大臣

呉鎮守府ノ部中築城海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

西海海軍航空隊

大分航空基地(大分縣大分市)

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第二五二號

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年三月二十日

海軍大臣

「美保海軍航空隊」及「横須賀海軍航空隊」ヲ「第五航空艦隊」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

秘海軍公報 第四九六八號 昭和二十年三月二十七日

内令第二五四號

横須賀鎮守府所管

特設驅潜艇

右特設敷設艇ト改ム

昭和二十年三月二十一日

海軍大臣

内令第二五五號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年三月二十一日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項特設敷設艇ノ欄「金城丸(横)」ノ次ニ「こうせい丸(横)」ヲ加ヘ特設驅潜艇ノ欄「こうせい丸(横)」ヲ削ル

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令兵第一二號

空技廠十八試六番二十七號爆彈一型ヲ兵器ニ採用シ三式六番一十七號爆彈一型ト呼稱ス

昭和二十年三月二十六日

海軍大臣

三一九

20.4.5

1976

秘海軍公報 第四九六八號 昭和二十年三月二十七日

○ 雜 款

○本日軍極秘海軍公報第一〇六號(乙配付)發行セリ  
配付先  
各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、第一海軍技術廠、  
同支廠

三二〇

1977

秘

# 海軍公報

第四九六九號

昭和二十年三月二十八日(水)  
海軍大臣官邸

## 命令

内令第二四三號ノ二

驅逐艦 八重櫻

右本籍ヲ横須賀鎮守府卜定メラル

昭和二十年三月十七日

海軍大臣

内令第二五三號

佐世保鎮守府在籍

海防艦 志賀

右警備海防艦卜定メラル

昭和二十年三月二十日

海軍大臣

官房教機密第一四六號

術科現地指導實施規程ニ基キ左ニ依リ電測指導班ヲ九州及吳方面ニ派遣シ主トシテ海上護衛艦艇ニ對スル術科指導講習ヲ實施ス

昭和二十年三月二十六日

海軍大臣

一 指導講習項目

秘海軍公報 第四九六九號 昭和二十年三月二十八日

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)

二 編制

班長	大尉	安部 容
班員	中尉	吉澤朝治
	兵曹	三

三 派遣期間

昭和二十年三月二十四日ヨリ約〇・五月

四 派遣地

佐世保、鹿兒島(指宿)、佐伯、門司、吳

〇 通牒

軍務一機密第二一一號

昭和二十年三月二十七日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

御陵等ノ安全確保ニ關スル件申進

三三二

1978



首題ノ件ニ關シ別紙ノ通宮内次官ヨリ申越有之候條將來新ニ施設等計畫ノ場合ハ本趣旨ニ副フ様實施方取計相成度

(別紙)

宮内大臣 宮發第七〇號

昭和二十年三月十三日

宮内次官 男爵 白根 松介

海軍次官 井上成美殿

御陵等ノ安全確保ニ關スル件

左記地域ニ對シテハ極力空襲其ノ他ニ因ル危害ヲ防止シ其ノ安全ヲ期シ度候ニ就テハ附近ニ新ニ施設等御計畫相成候場合ハ本趣意ニ合スル如ク御協力相煩ハシ度尙戰爭遂行上已ムヲ得ザル事由ノ存スルモノニ付テハ豫メ當省ニ内協議相成様致度

記

- 一 御陵、御墓 所在 京都市上京區
- 一 京都皇宮 所在 京都市左京區
- 一 修學院離宮 所在 京都市右京區
- 一 桂離宮 (以上ハ世傳御料)
- 一 田母澤御用邸及同附屬邸 所在 栃木縣日光
- 一 日光御用邸 所在 栃木縣日光
- 一 那須御用邸及同附屬邸 所在 栃木縣那須郡
- 一 鹽原御用邸 所在 栃木縣鹽谷郡鹽原

三三二

- 一 伊香保御料地 所在 群馬縣伊香保
- 一 以上ハ御使用上ノ關係アルニ由ル尙那須御用邸ニハ御物並貴重圖書美術品疎開收納シ在リ
- 一 正倉院 (世傳御料) 所在 奈良市雜司町
- 一 奈良帝室博物館 所在 奈良市奈良御料地内
- 一 淺川倉庫 所在 東京都南多摩郡横山村
- 一 以上ハ御物及貴重圖書美術品疎開收納シ在リ
- 一 翁島高松宮御別邸 所在 福島縣耶麻郡翁島村
- 一 右ハ文部省所管國寶及帝室博物館所管優秀美術品疎開收納シ在リ

1979